

オーディオ実験室収載

foQ シートによる制振 (19) —JBL4350A スピーカーケーブルへの適用—

1. はじめに

[前報\(18\)](#)では FAL C90EXW のスピーカーケーブルへの foQ シートの適用を行いましたが、今回は JBL4350A のスピーカーケーブルへの foQ シートの適用を実施します。これまで JBL4350A のスピーカーケーブルへの foQ シートの貼り付けを見送ってきたのは、JBL4350A の背面のケーブル端子やムジカライザーへの処理はベランダから行わねばならず、ようやく暖かくなってきたので実施する気になったわけです。

2. foQ シート適用の試聴条件

JBL4350A のスピーカーケーブル関連への適用に際しては次のような箇所が考えられます。

- ①スピーカー側ケーブル端子
- ②スピーカーとアンプ間に挿入しているムジカライザーの端子
- ③アンプ側ケーブル端子

スピーカー側ケーブル端子は、JBL4350A のダブルウーファーとそれ以外のユニットの接続端子、ES-105 の接続端子および Sopranino の接続端子が対象です。

JBL4350A のダブルウーファーとそれ以外のユニットのスピーカー接続端子には foQ シートを貼ります。

Sopranino の接続端子はすでに前報(18)で foQ シートの適用とバナナプラグの適用を行っていますので、ES-105 の接続端子に foQ シートを巻きます。

スピーカーとアンプ間に挿入しているムジカライザーの端子はダブルウーファー用とそれ以外のユニット用の 2 台×L/R の計 4 台のムジカライザーの端子に foQ シートを巻きます。

アンプ側ケーブル端子のうち 12.5KHz 以上の高域用の Pilotone の 6V6pp アンプはケーブルをネジ止めしていますので、ネジの上に foQ シートを貼ります。

12.5KHz と 250Hz の間を駆動する芦屋ベルステレオオリジナルの 45pp アンプはケーブルをネジ止めしており、アンプのネジ止め端子側に foQ シートを巻きます。

250Hz 以下のダブルウーファー用のヒースキットの KT88pp アンプは鰐口クリップを介在させていますので、鰐口クリップのケーブルをネジ止めしている付近に foQ シートを貼り、鰐口クリップで挟んでいるケーブルに foQ シートを巻きます。

3. foQ シート適用の試聴結果

JBL4350A を聴くには、[タップリベラメンテとフィルタライザーの導入\(10\)](#)以来です。その後、入力系に iPurifier DC や RCA ショートピンが加わっていますので、そういった効果で、久しぶりに聴くと透明度が上がっており、躍動感が感じられます。この状態で上記のような一連の JBL4350A のスピーカーケーブル周りへの foQ シートの貼り付けを実施しますと、JBL のホーンの硬質感が低下して高域の艶が増し、ウーファー領域のだぶつき感が後退します。従って抜けの良さはそのままに全体のバランスがよくなり、弦などもきわどい音が出なくなって安心して聴ける状態になりました。正直言って JBL で弦がここまで聴けるようになるとは思っていませんでした。

4. まとめ

JBL4350A のスピーカーケーブルの接続において foQ シートの効果を認めました。

以上